

TAKUMI

東京都港区芝4-3-6
TEL.03-5419-8690

<http://www.takumi-corp.com>



重南修 社長

様々な電子機器で結ばれた

ユビキタス社会の表示技術を

より豊かに進化させていく

「GSHARK-TAKUMI」

携帯電話からのネット利用者数は現在、約7287万人（総務省通信利用動向調査・2007年実施）に上る。そんな中増えているのが2Dや3Dの画像を使った直感的操作ができる操作画面だ。

「画像表示の多様化の中、描画能力の技術の向上は目覚

しく、ユーザーが使いやすい、リアルな表現やスムーズな物体の動きを伴う操作画面が増えてきています」

こう語るのは株式会社TAKUMI（資本金4500万円）の重南修社長だ。

同社はアクセラレータIPコア「GSHARK-TAKUMI」シリーズを開発した技術者集団だ。

これは2Dや3Dグラフィックス描画処理を高速に実行し、豊かな表現を可能にするLSI（大規模集積回路）回路技術だ。携帯電話などの情報端末に組み込まれている。

組み込み向け画像の国際標準規格であるOpenGL ES規格を日本で初めて取得。業界最小のサイズで低消費電力化に成功しており、描画処理の速度にも定評がある。

こうした特長から、携帯情報端末だけでなく、デジカメやビデオ、テレビなどのメニュー画面表示やデータ入力上の操作感を追求した製品への搭載に適している。

販売形態は設計データを顧客に公開したライセンス方式。NECエレクトロニクスなどの大手メーカーと直接取引を実現している。

「知的財産の重要性が高まっている現在、製品そのもの

を販売するのではなく、ライセンスビジネスを進めようと考えました」

こう語る重南社長は東証一部上場のエレクトロニクス企業、三信電気在籍中に主業務の傍ら00年に3D描画技術を携帯電話に搭載する開発企画を考案した。

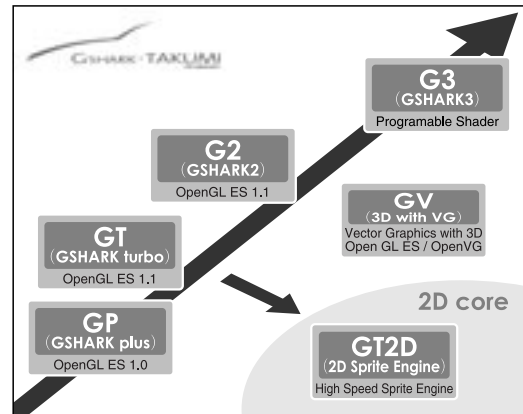
「当時の携帯電話はモノクロ画面が主流。携帯電話で3D技術が開花するなど誰もが考えていなかった頃です。周囲のサポートもあり、事業を温めてきました」（重南社長）

その後、03年7月に同社を設立。三信電気と、大規模なITインフラ開発をクボタグループとして行うクボタコンプスとの共同事業を推進し、今年で5周年を迎えた。

最先端の画像組み込み技術を日本から世界に向けて

現在、社員数22名のうち、エンジニアが9割を占める技術者集団に成長した同社。

「目まぐるしく進化する描画技術にキャッチアップしていくためにも、エンジニアには自ら手がけた製品がどのよう



様々なアプリケーションに広がる「GSHARK-TAKUMIシリーズ」の技術

か考えてほしい。技術力も含めてこの意識が大切なことです」（重南社長）

また、同社は米国の3D製品の規格策定団体、クロノスグループの規格標準化フォーラムに参画し、世界中の業界関連企業と肩を並べる。社員は積極的に外部と意見交換し、モチベーションを高める場にもなっている。

「現在、当社では海外の市場にも目を向けています。日本の誇れる技術を海外に認めさせたいと思っています」

こう抱負を語る重南社長。日本のモバイル市場は世界に類を見ないほどに多機能化したハイエンド製品中心の市場。厳しい業界で培った画像表示の進化を支える同社の技術に今後も注目が集まる。（杉）